
編集後記

本巻では「終末期」というキーワードのもと、在宅ホスピスケアにおける在宅リハビリテーションの関わりについての特別寄稿、そして地域食支援に関する事例の紹介、終末期医療のリハビリテーション専門職の関わりについての報告を掲載させて頂きました。

人生の最終段階において、して欲しいこと、して欲しくないこと、また最期を迎える場所など当事者自身による選択（Choose）と意志決定が重要とされています。予め「人生会議」の場でそれらの選択と意思決定について、当事者と当事者周囲の人たちで共有することができておれば良いですが、現実的には実際にそのような状況にならないと物事が進まない、そして状況に切迫して質の高い選択が困難となってしまう、というのが現実ではないでしょうか。

昨年は「死に場所難民」という言葉がメディアで取り上げられ、多死社会に突入している我が国では非常に切実な課題であることを実感しました。誰もが質の高い最期の選択ができるように備えておくこと、それが自身の望むべき最期を迎えるための最善策であることを誰もが知りうる社会になることを心から願うばかりです。

令和7年1月23日

京都在宅リハビリテーション研究会 世話人代表 木村篤史

京都在宅リハビリテーション研究会誌

第18巻

令和7年2月8日 発行

編集者

京都在宅リハビリテーション研究会事務局

（木村篤史、永山智貴、小西倫太郎、神田佳明、森川重幸、堀田直樹、
浅野翔平、村富渚、川勝紅葉、高屋真奈、安藤希美、内藤涼乃）

発行者

木村篤史

〒629-0392 京都府南丹市日吉町

明治国際医療大学附属病院 総合リハビリテーションセンター

Tel 0771(72)1221